

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道53号 <small>おかやまきた</small> 岡山北バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自： <small>おかやまけんおかやましきたくつしま</small> 岡山県岡山市北区津島 至： <small>おかやまけんおかやましきたくみつなかやま</small> 岡山県岡山市北区御津中山	延長	10.5 km		
事業概要					
<p>一般国道53号は、<small>おかやまし</small>岡山市から<small>とっとりし</small>鳥取市に至る延長約150kmの主要幹線道路である。</p> <p><small>おかやまきた</small>岡山北バイパスは、岡山市中心部と山陽自動車道岡山IC及び岡山空港を結ぶアクセス道路として機能するとともに、<small>くこうつやま</small>地域高規格道路「空港津山道路」の一部を構成する延長10.5kmの道路である。</p>					
S49年度事業化		S32、S50、H元年度 都市計画決定		S55年度用地着手	
S61年度工事着手					
全体事業費	約590億円	事業進捗率	82%	供用済延長	8.7 km
		(H22年度末現在)			
計画交通量	20,700 ~ 51,700 台/日				
費用対効果分析結果	B/C (3便益) (事業全体) 2.5 (残事業) 1.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 98 / 1,071 億円 〔事業費：75/979億円 維持管理費：23/ 92億円〕	総便益 (残事業)/(事業全体) 116 / 2,712 億円 〔走行時間短縮便益：108/2,549億円 走行費用減少便益：2.3/ 148億円 交通事故減少便益：6.1/ 14億円〕	基準年 平成23年	
感度分析の結果					
<p>(全体事業) 交通量：B/C=2.4~2.7 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.1~1.4 (交通量±10%)</p> <p>事業費：B/C=2.5~2.6 (事業費±10%) 事業費：B/C=1.1~1.3 (事業費±10%)</p> <p>事業期間：B/C=2.5~2.6 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.1~1.2 (事業期間±20%)</p>					
事業の効果等					
<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・損失時間の削減が見込まれる ・利便性の向上が期待できるバス路線が存在【岡山市内-岡山空港・リムジンバス (34本/日)】 ・岡山市内北部 (建部支所) から岡山駅 (新幹線駅) へのアクセスが向上 ・岡山市から岡山空港 (第三種空港) へのアクセスが向上 <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内北部 (建部支所) から岡山港 (重要港湾) へのアクセスが向上 ・岡山市 (旧御津町・旧建部町) からの農林水産品の速達性が向上 <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡 ・日常活動圏の中心都市へのアクセスが向上 <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後樂園 (H21年間観光入込客数74万人) へのアクセスが向上 <p>⑤災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山県の第1次緊急輸送道路に指定 (一般国道53号) ・緊急輸送道路である一般国道53号が通行止めになった場合の代替路線を形成 <p>⑥地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる 					

関係する地方公共団体等の意見

岡山北バイパスの整備により、国道53号の交通円滑化が図られるとともに、市民生活の快適化と沿道の活性化が期待されることから、岡山市をはじめとする2市5町から構成される空港津山道路整備促進協議会などより早期整備の要望を受けている。

岡山市長の意見：

意義ありません。

なお、広域的な交流や渋滞緩和を図るための重要な道路であり、引き続き整備の促進をお願いします。

特に、一般国道53号岡山北バイパスにおいては、津高大橋の4車線化について、事業促進による早期供用を要望します。

事業評価監視委員会の意見

事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。

審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。

なお、審議過程において、不適切な点又は改善すべき点等の意見は無かった。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線では、商業施設等が立地し市街化が進み沿道地区人口も増加している。

周辺地域の自動車交通の増加（山陽自動車道岡山ICや岡山空港利用等による）に伴い、津高地区では交通渋滞が発生している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成22年度末で用地買収は、94%完了し、現在までに岡山市北区津島～岡山市北区吉宗までの8.7kmが暫定供用済みである。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

投資効果の早期発現を図るため段階的に整備しており、平成24年度に津高大橋付近の4車線化を予定している。

施設の構造や工法の変更等

機能分離型支承の採用により、コスト縮減を図っている。【0.1億円の減少】

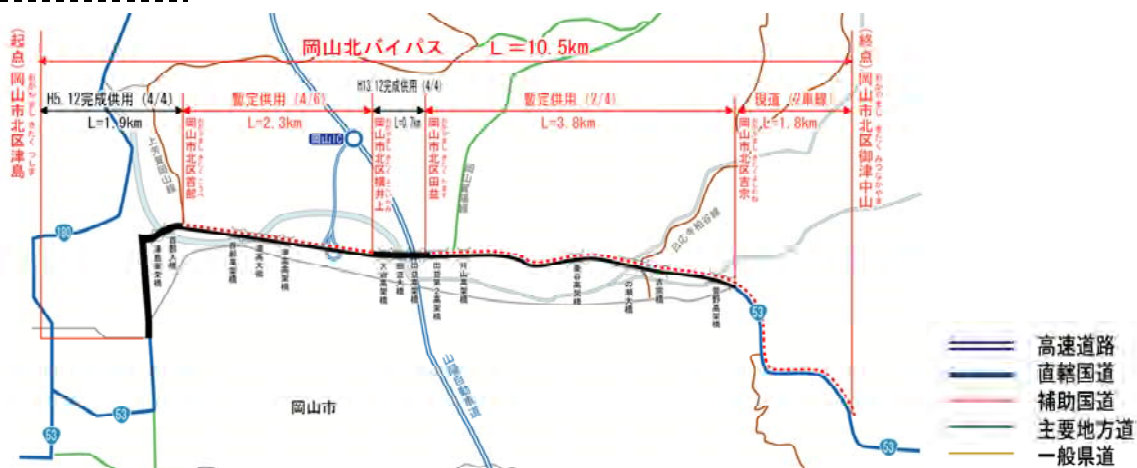
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。